

発掘調査で分かった 東山道武蔵路の様相

ますい あるま
講師：増井 有真

(国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 史跡係)

東京都国分寺市内では、これまでに約 70 カ所の調査区で古代官道である東山道武蔵路の遺構が確認されています。台地上では、幅約 12mの直線道路が 340mに渡って発見され、国分寺崖線や武蔵野段丘面を開析する谷や湧水源付近の調査区では、起伏にとんだ地形や湿地帯を克服するための土木工事の痕跡も確認されています。また、武蔵国分寺付近では、寺院の造営と一体となった道路の整備が図られ、東山道武蔵路が官道としての役割を終える宝亀 2 年以降も平安時代の終わりまで南北の交通機能を有していたことが判明。最近の調査成果も踏まえ、国分寺市内の東山道武蔵路について紹介します。

増井先生との交流を兼ねてミニ講演

多摩丘陵を越える古代東海道の推定路について

講師：宮田太郎（歴史古街道団 団長）

関東最大級の古代国道「東山道武蔵路」は、はたして多摩丘陵へと続いていたのでしょうか。打越山の古代街道発掘の状況と、野津田公園に遺る痕跡との関連を考えます。

日時：2016 年 8 月 2 日（火）

開演：午後 2 時（開場：午後 1 時 30 分）

会場：多摩市関戸公民館（VITA）8 階 大会議室

〒206-0011 多摩市関戸 4-72. ☎042-374-9711

アクセス：京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」西口徒歩 2 分

参加費（資料代）：700 円

定員：先着 90 名（事前申込不要）

